

コハクチョウとキツネ

2月の大浦沼はまだ厚い氷に閉ざされている。3月に入り氷が少しずつ溶け出してくると、僅かに開けてきた水面にハクチョウが降り立った。

毎年、3月の春分の日をピークに大浦沼は渡り鳥の中継地点として、多くのカモ類で賑わいます。浅い沼底にはハスやヒシなど植物が多数生えているので、渡り鳥にとっては貴重な食事処なのです。数十羽のコハクチョウが沼の中や田んぼで羽を休める、のどかな風景である。

しかし、のんびりとはしてはいられません、天敵のキツネが氷の上を歩きながら近づいてきたのだ。

すぐさまハクチョウたちは危険を察知し、水面に移動。夜行性のキツネであるが、日中でもすぐ目の前にいるハクチョウを狙ってきたのだろう。



日当たりもよく、のんびりと羽を休めている。

しかし頭のいいキツネであっても、水の中に入って襲うことはできません。キツネは私の撮影に気が付いたのか、踵を返して去っていった。

危ないところであった。やはりハクチョウは水面に浮かんでいたほうが安全であることと、眺めるほうも絵になる光景です。



頭を背中にうずめていたが、やっと起きたようだ。



氷の上で、じっとこちらを眺めている。



みんな水に浮かんで警戒中。



キツネが去ったので、安心してエサを探す。